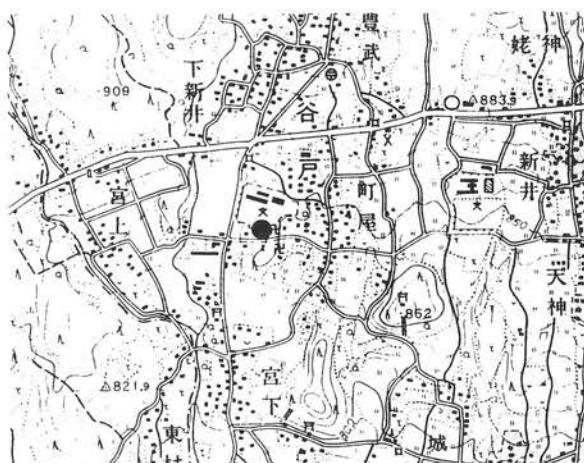
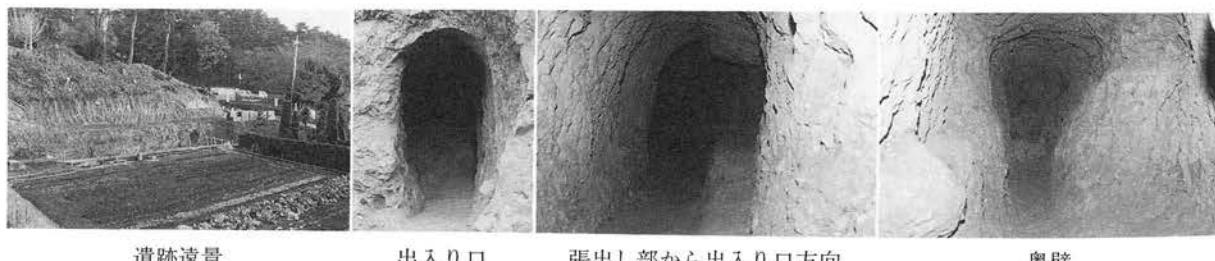


12. 町屋第4遺跡

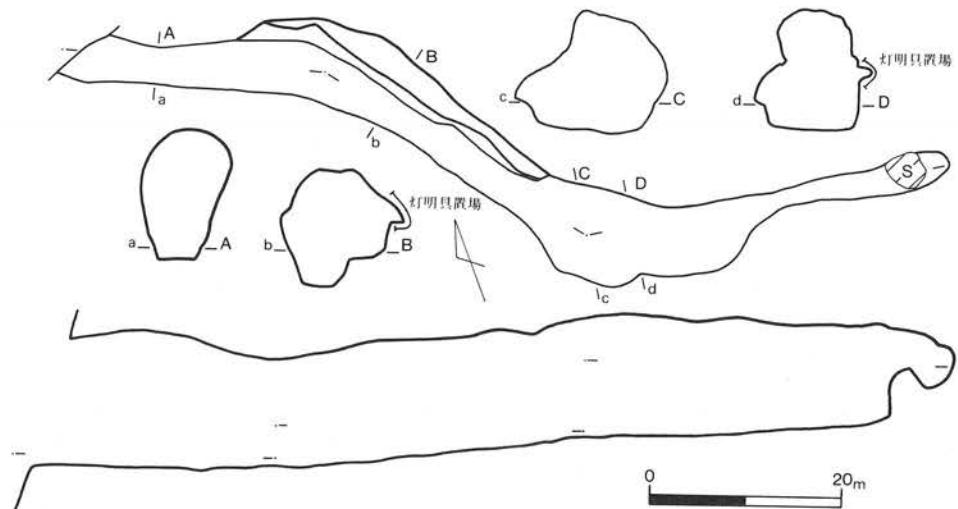
所在地 大泉村谷戸字町屋2090-2
 調査原因 グラウンド造成中に発見
 調査期間 1999年11月22日～11月26日
 調査面積 約6m²
 調査主体 大泉村教育委員会
 担当者 伊藤公明・渡邊泰彦



本遺跡はグラウンド造成のため斜面を削ったところ発見された横穴で、粘土層下の岩盤をほぼ水平に掘り進めている。確認できた全長は約9.5mであるが、本来は15mほどあったものと推測される。岩盤の硬い部分を避けたためか蛇行しながら進み、南東方向に曲がったところから3.5mにわたって、北壁に高さ30cmの階段状の掘り残しが見られるが、これも同じ理由によるものであろう。壁面には刃幅10cmの工具痕が残り、北壁には1mに満たない間隔で、上部に煤の付着した、灯明具を置くための掘り込みが続く。土は入り口の床面、北壁の階段状の部分とその先の南に張り出した広い部分に捨てられていたことから、入り口近くは外部に出していたが、奥の部分では内部で処理するため横幅を広げたものと考えられる。この遺構は、その特徴から北巨摩郡下に見られる横井（横方向に掘る井戸）である可能性が高く、掘られた時期は近世以降と考えられる。



遺跡遠景 出入り口 張出し部から出入り口方向 奥壁



町屋第4遺跡 遺構全体図及び縦・横断面図 (S=1/80)